

彙 報

第一八回総会および研究集会

本簡学会第一八回総会および研究集会は一九九六年二月七、八日に平城宮跡資料館講堂において、約一六〇人の会員の参加をえて開催された。会場には平城宮、長岡京、宮町遺跡、袴狭遺跡、祢布ヶ森遺跡、岩吉遺跡、前橋城跡の木簡が展示された。

◇二月七日(土)(午後一時～六時)

狩野久会長の開会のあいさつの後、総会に入った。

第一八回総会(議長 山中章氏)

会務報告(館野和己委員)

会員の状況(三〇二人が三二三人に増加)、会員名簿を作製したこと、日常的な運営のために常任委員会を作りたいこと、創立二〇周年記念事業を企画・立案するための委員会を作りたいこと、九八年秋には特別集会を開催する予定で、交渉に入っていることなどが報告された。

編集報告(鎌田元一委員)

一八号の編集過程が報告され、誌代は値上げなく、五五〇〇円と

したことが報告された。

会計・監査報告(綾村宏委員 八木充監事)

綾村委員から一九九六年度の会計決算報告が行われ、八木監事から会計は正確、適正に処理されている旨の監査報告がなされた。ついで、綾村委員によって九七年度の予算案の説明が行われた。以上の案件は異議なく了承された。

役員改選

次期(一九九七・九八年度)の委員および監事について松下正司氏から提案があり、承認された(五ページ参照)。

研究集会(司会 佐藤信氏)

韓国出土木簡の現状

田中 俊明氏

韓国出土の木簡について

李 成市氏

一九九六年全国出土木簡概要

山下信一郎氏

田中氏の報告は、韓国で木簡の出土したおもな遺跡を概観し、スライドを利用して解説するものであり、李氏の報告はいくつかの木簡をとりあげ、その解釈を試みるものであった。二報告とも活発な討論が行われた。山下報告は例年どおり、全国の木簡出土遺跡(九遺跡)について説明したもので、その多くは本号に収録できた。

◇二月八日(日)(午前九時～午後三時三〇分)

研究集会(司会 榎木謙周氏)

岩吉遺跡と出土木簡

山田 真宏氏

柿布ヶ森遺跡と出土木簡

加賀見省一氏

長岡京東一坊大路西側溝出土の木簡

清水 みき氏

三報告ともさわめて興味深い三遺跡の様相や出土木簡を紹介するものであり、討論でもさまざま質問が出され、理解を深めることができた。

昼休みには平城宮式部省東方官衙の発掘現場を見学した。

最後に佐藤宗諄副会長のあいさつをもって、二日間の総会・研究集会を終了した。

委員会報告

◇一九九六年一月二二日（金） 於奈良国立文化財研究所

新規入会者の承認の再確認を行った。会誌一八号の編集について報告があった。一八回総会・研究集会にむけて、研究集会の内容、九六年度決算・九七年度予算、委員の改選、常任委員・二〇周年記念事業のための委員などについて協議した。

◇一九九六年二月七日（土） 於奈良国立文化財研究所

総会に先立って、会務、編集、会計報告があり、総会・研究集会の運営など細部の協議を行った。誌代についても検討した。

次期委員に選出された委員が、総会後、先例により委員会を開き、次期会長に狩野久氏を選出した。

◇一九九七年六月六日（金） 於奈良国立文化財研究所

幹事の委嘱（増淵徹氏）、九六年度決算報告および監査報告が行

われ、ついで、入会審査を行った。会誌一九号の編集について説明があり（担当は鎌田元一委員と山下信一郎幹事）、協議した。総会・研究集会の予定について報告があり、特に研究報告の内容について意見が交わされた。特別研究集会を九八年六月に長野県で開催することが提起され、また、和田萃委員から二〇周年記念事業について提案があった。

◇一九九七年一〇月二一日（火） 於奈良国立文化財研究所

幹事の委嘱（吉川聡氏）、会誌一九号の編集について説明があり、未収録の遺跡が増えたのは残念であるとの意見も出された。会計の中間報告が行われた。総会・研究集会の開催案が説明された。九八年六月五・六日に予定される長野特別研究集会について実行委員会による開催案が説明され、協議した。入会審査を行い、一名ずつ可否を決定した。二〇周年記念事業の出版案について報告され、意見が交換された。今年度発足した常任委員会の活動について報告された。会計に関する内規の変更・九八年度予算案について協議した。これらについては、いずれも承認された。

（鷲森浩幸）